

帰宅困難者対策経営トップセミナー2020 アンケート結果

(Q1) 講演内容・講演時間についての評価

- 講演内容、講演時間ともに、おおむね「満足」、「やや満足」との評価となっています。
講演時間について、「やや不満」との回答がみられます。
- オンラインでの開催についても、「満足」との回答が多く、「やや満足」をあわせて、おおむね満足との評価となっています。

		満足	やや満足	どちらとも いけない	やや不満	不満
コロナ禍における帰宅困難者 対策について(東京大学大学 院 廣井准教授)	内容	30.0%	60.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	講演時間	20.0%	40.0%	20.0%	10.0%	0.0%
オンラインでの開催について		60.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%

(Q2) 期待していた情報が得られたかどうか

- 「期待していた情報が得られた(「はい」)」が7割で、得られた情報として下表のとおり、
コロナ対策をふまえた対応、一斉帰宅抑制の取り組み事例などがあげられています。
- 一方、「期待していた情報が得られなかった(「いいえ」)」については、理由として、下表
のとおり、企業としての役割やコロナ禍での対応などをもっと具体的に聞きたかったな
どがあげられています。

はい	70.0%
いいえ	20.0%
どちらともいけない	10.0%

「はい」 → どのような情報が

震度6強、7の場合の帰宅困難者対策は「違う」というご意見に賛同です。
エリア内の企業のご担当者もエリアで帰宅困難者対策に取り組む意義が、まだまだ十分に浸透していない
状況があります。
社員の帰宅抑制で十分対応できるという理解が前提になっています。
京橋エリアであれば、上町断層直下型地震の場合など、自社ビルが滞在不適になる場合や被害状況が最
悪な場合を想定してOBP協議会として共助の対策を準備し、訓練を継続していく必要性の理解を深めてい
きたいと思います。

新型コロナウイルス感染対策を踏まえた対応について確認ができた。

帰宅困難者対策として、一斉帰宅抑制が有効な事がよく理解できた。
弊社の事業では、災害発生時に調査、復旧、お客様対応等でそもそも帰宅できない場合が多いと思われる
が、他社の事例も参考にして今後の対応を検討したい。

一斉帰宅の抑制の取り組み事例。

4つの誤解。

コロナ対策について。

帰宅困難者対策の問題点が理解できました。

「いいえ」「どちらともいえない」 → 理由

廣井先生の講義は毎回聞いており、新しい情報としては、コロナ感染防止対策だけではないでしょうか。企業としての役割をもう少し詳しく聞きたかったです。

若干東京の情報が多く、大阪の情報も多くあればと思いました。

コロナ禍での対応について、重要であるとの認識ではあるが、具体的な対応まで踏み込んだものではなかった。

(Q3) 自社での帰宅困難者対策に役立つかどうか

- 「役立つ(「はい」)」が6割で、下表のとおり、エリア企業の防災担当者と共有、図上訓練のやり方の参考などがあげられています。
- 「どちらともいえない」が3割で、理由として、下表のとおり、現状認識と大きな差異がないなどがあげられています。

はい	60.0%
いいえ	10.0%
どちらともいえない	30.0%

「はい」 → どのように役立ちそうか

上記(Q2)に同じ。本セミナーの内容を協議会の役員会(安全安心部会)やエリア企業の防災担当者と共有させて戴きます。

(Q2):震度6強、7の場合の帰宅困難者対策は「違う」というご意見に賛同です。

エリア内の企業のご担当者もエリアで帰宅困難者対策に取り組む意義が、まだまだ十分に浸透していない状況があります。

社員の帰宅抑制で十分対応できるという理解が前提になっています。

京橋エリアであれば、上町断層直下型地震の場合など、自社ビルが滞在不適になる場合や被害状況が最悪な場合を想定してOBP協議会として共助の対策を準備し、訓練を継続していく必要性の理解を深めたいと思います。

緊急時に対応が可能となる為。

災害発生時にとどまる難しさ、家族からの救援時にどのように対応するかしっかり理解できた。

(Q2)のとおり。

(Q2):帰宅困難者対策として、一斉帰宅抑制が有効な事がよく理解できた。

弊社の事業では、災害発生時に調査、復旧、お客様対応等でそもそも帰宅できない場合が多いと思われるが、他社の事例も参考に今後の対応を検討したい。

図上訓練のやり方の参考。

コロナ禍中での対策に一考ができた。

「いいえ」「どちらともいえない」 → 理由

弊社はテナント会社の為、オーナー会社の方針が決まらない事には、対策が進まない。

マニュアルを作る事ができるかどうか分からない。

学校の場合、学生、生徒と教職員の対応は分けて考える必要があります。

現状認識している内容と大きな差異がなかった為。

(Q4) 自社での帰宅困難者対策への取組みが変化するかどうか

- 「変化する(「はい」)」が5割で、下表のとおり、コロナ対応についての検討、対策マニュアルづくりの検討などがあげられています。
- 一方、「変化しない(いいえ)」が2割、「どちらともいえない」が3割となっており、理由として、下表のとおり、従業員以外の受け入れは難しい点に変化はないなどがあげられています。

はい	50.0%
いいえ	20.0%
どちらともいえない	30.0%

「はい」 → どのように役立ちそうか

コロナ対応について、今後、検討を深めていきたいと思えます。

今のところ、自社、施設店舗従業員の行動含め、検討していかなければならないと考えています。

(Q2)のとおり。

(Q2):帰宅困難者対策として、一斉帰宅抑制が有効な事がよく理解できた。

弊社の事業では、災害発生時に調査、復旧、お客様対応等でそもそも帰宅できない場合が多いと思われるが、他社の事例も参考にして今後の対応を検討したい。

コロナ禍での帰宅困難者対策。

対策マニュアル作りの検討。

「いいえ」「どちらともいえない」 → 理由

弊社はテナント会社の為、オーナー会社の方針が決まらない事には、対策が進まない。

従業員以外の受け入れは難しいと感じており、その点について変化はない事から、「どちらともいえない」で回答。

災害により業務が増え、職員確保が必要になる。

特に変化はないと思えます。

現状認識している内容と大きな差異がなかった為。

(Q5) セミナーについての改善点やその他のご意見

- 情報提供拠点の設置に向けての実践訓練、BCP関連の取り組み事例の紹介などの要望、共助部分のハードルが高すぎるなどのご意見があります。

帰宅困難者対策マニュアル作成後から進んでいないように思います。
情報発信ステーションの設置に向けて、実践訓練が必要ではないでしょうか。
折角のWEBセミナーなのに参加者が45名では少ないのではないのでしょうか。

事業者から大阪市(行政)に対する質問がありませんでしたか？
あったのでしたら絞り込んだ上で一つはご紹介戴き、大阪市の見解をご披露戴きかっと思ひます。

参考にさせて戴きたく、BCP関連の取り組み事例を多く紹介戴けますと幸いです。

オンラインセミナーと物珍しい事もあり、集中してみる事が出来ました。
私自身テレビ文化の人間であり、映像を鑑賞しているだけで頭に入ってくるよう思ひます。(笑)
若干、講師の講話と映像が合わない事から映像が変わったのかわからない事がありました。

自身の部分においては、一定、認識も浸透し、指示も可能な状況には近づいていると認識しているが、共助部分については、求めるハードルが高すぎると感じる。